

1. 研究課題名： 指定管理鳥獣の放置要件に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：
国立研究開発法人 森林総合研究所
堀野眞一



3. 研究実施期間：平成 27～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

捕獲を強めなければならないシカ等の鳥獣に対処するため法律が改正され、特定の場合には捕獲個体をその場に放置できるようになりました。これには、生態系に重大な影響を及ぼすことがない場合、などの条件がつけられていますが、放置で生じる影響についての知識や経験はこれまでほとんどありませんでした。

本研究では、実際にシカを放置する実験と、放置に対する地域住民などの意識調査を行い、放置をするときの条件と方法をガイドラインにまとめます。

これにより、捕獲個体を運び出す負担の軽減を通じて個体群管理の推進に役立つことが期待されます。

5. 研究項目及び実施体制

シカ個体を放置する実験では、どのような生物が遺体の分解に関与するのか、周辺環境に生じる影響はどのようなものか、放置する個体に皮を剥ぐなどの処置を施した場合の違いは何か、などを調べます。

また、周辺住民、土地所有者または管理者や利用者に対してアンケートを実施して、捕獲個体放置に対する理解や意見を調査します。

国立研究開発法人森林総合研究所野生動物研究領域（つくば市）

国立研究開発法人森林総合研究所九州支所（熊本市）

6. 研究のイメージ

6. 研究のイメージ



シカ捕獲個体を放置すると....



どんな生物が
どんなふうこ
影響を受けるか？
受けないか？



放置個体数が異なると....



季節が異なると....

その他の条件が異なると....



地域の人たちま
どのように見るか？

生物学的な条件

合意形成の条件

放置要件のガイドライン作成